

取組事例 「丘のまちびえい」に新たな人の流れをつくる

(美瑛町)

美瑛町では、魅力ある観光資源を生かし観光地としての知名度向上の取組に加え、観光拠点の再構築、観光スポット周辺整備、町内関係団体の連携に基づく美瑛版DMOの創設、首都圏アンテナショップでの特産品販売を通じた町PRなど、稼ぐ観光に向けた体制整備。

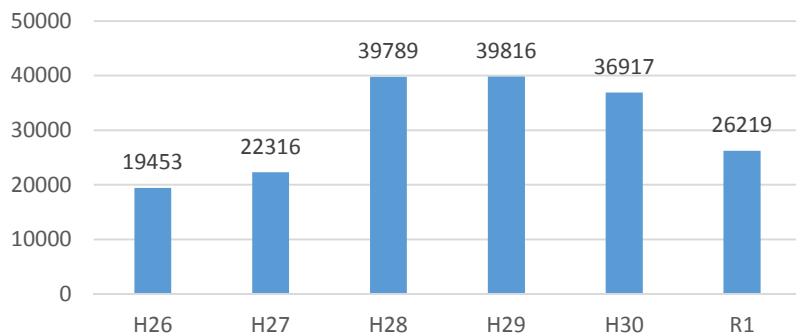
関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
観光入込 客数	1,791 千人	2,375 千人	2,000 千人	118.8%
特産品アン テナショップ 年間売上率	100%	140%	130%	107.7%

取組の推進体制

町内関係団体の連携に基づく「丘のまちびえいDMO」を立ち上げ、美瑛の「稼ぐ力」を引き出し「観光地経営」の視点に立って取組を効果的に推進。

外国人観光客の宿泊延べ数



旭川空港国際線の減便・運休(H29～)、胆振東部地震(H30)、新型コロナウイルス(R1)等の影響がある中においても、着実に海外客のファンを増やしている。

取組事例 「丘のまちびえい」に新たな人の流れをつくる

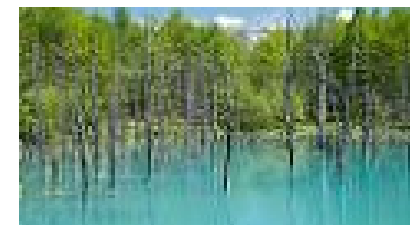
地域資源を活用した観光戦略の構築・情報発信力強化による交流人口の増加

○主な取組

- ・観光地としての知名度アップのための情報発信
- ・観光マスタープラン作成
- ・町内関係団体の連携に基づく美瑛版DMOの創設
- ・東京有楽町のアンテナショップでの農産品・加工品販売を通じた町のPR
- ・観光拠点である白金エリアの再構築事業
- ・道の駅「白金ビルケ」オープン
- ・観光スポット「青い池」周辺整備

○主な成果

受入体制の整備を整えながら、観光地としての魅力発信を集中的に行ったことにより、質の高いおもてなしを提供することができ、「丘のまちびえい」のブランド力向上が図られ、交流人口の拡大に繋がった。



取組事例 浜頓別魅力発信プロジェクト

(浜頓別町)

浜頓別町では、交流館事業として「道の駅北オホーツクはまとんべつ」を開業し、同施設を中心として、町のイベント等との相乗効果により、交流人口や関係人口を増加させ地域の活性化を図る。

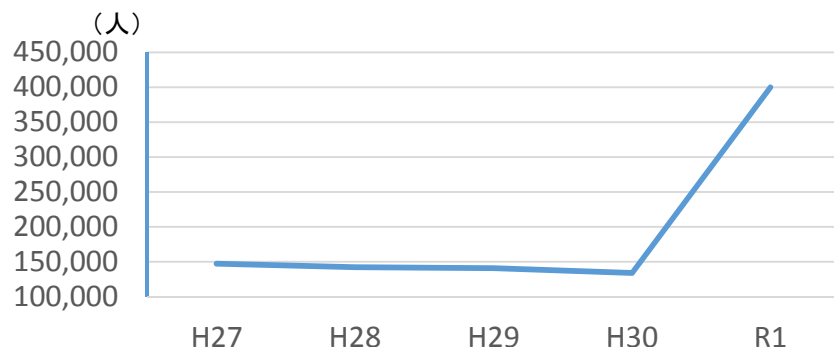
関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
観光客入込数	15万人	40万人	17万人	235. 2%

取組の推進体制

令和元年5月に交流館・道の駅北オホーツクはまとんべつが開業した。バスターミナル、交流館、道の駅としての複数機能を有した施設であり、コテージや町のイベント等との相乗効果も見込まれる。

観光入込客の状況



観光客入込客数が、交流館オープン後、
大幅な増加傾向にある。

取組事例 具体的な事例

「交流館・道の駅北オホーツクはまとんべつ」開業

○令和元年5月にバスターミナル、交流館、道の駅としての複数機能を有する施設として開業、観光入込数が上昇し、今後も交流人口や関係人口の創出に期待されている。



○主な成果
観光客入込数が前年から
298%増加した。

コテージ整備事業

○地域資源を生かした体験型観光を新たに創出する目的として、平成25年クッチャロ湖畔にコテージ3棟を建設、稼働率約70%との運用状況であり、観光の拠点となっている。

○本年度、地域創生拠点整備交付金を活用し、コテージ1棟を新たに建設し、道の駅との更なる相乗効果が期待される。



取組事例 官民協働による地域産業の再生と観光資源の磨き上げ

(福島町)

福島町では、陸上養殖技術の開発や未利用資源の有効活用に官民が連携して取り組んでいるほか、新たな観光プログラムを構築し、地域産業の再生と雇用の創出、交流人口の拡大を図る。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H27)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
コンブ生産量	332 t	625 t	322 t	194.1
水産加工場 就業者数	302人	176人	302人	58.3
観光入込客数	70,100人	89,508人	80,000人	111.9

取組事例Ⅰ 蝦夷アワビ陸上養殖技術の確立

推進体制

民間企業、大学、商工会、町が連携し、ノウハウを活かしながら施設開発や商品開発、マーケティングに取り組んでいる

主な取組

- 地方創生拠点整備交付金を活用し15万個の飼育が可能となる陸上養殖施設を建設
- 都内で開催された品評会で試食品を提供
- 販路開拓に向け飲食店へ原料を供給し、アンケート調査を実施

町内の学校給食でアワビカレーなどを提供

「福島に来ればいつでもアワビ」をキャッチフレーズに、道の駅等でアワビ商品の販売を開始



(品評会出展の様子)

取組事例Ⅱ 福島町昆布プロジェクトの推進

推進体制

民間企業、漁協、町の3者で事業化合意書を締結し、6次産業化の取組を効果的に推進

主な取組

- 惣菜大手メーカー「㈱ヤマザキ」「漁協」「町」により、未利用資源【早採り昆布】の有効活用に向けた共同事業実施に関する合意書を締結
- 商品化に向けて原料加工の試験研究を実施

町内の雇用増(約25名)

「早採り昆布」を使用した新商品開発
原料供給による漁業者の所得向上



(H29.2 調印式)

(新商品)

取組事例Ⅲ 新たな観光資源の創出

推進体制

町と町内有志により「(一社)福島町まちづくり工房」を設立し、まちづくりに関する企画、運営などを実施

主な取組

- 手つかずの大自然【青の洞窟】を巡る観光プログラム「岩部クルーズ」造成
- 地方創生推進交付金を活用し、海底を覗くことができる「グラスボート」を新造



町の観光資源として定着

近隣観光施設の来館者の増加にもつながっている

取組事例 地域の気候風土や資源を活かした特産品開発の推進

(積丹町)

積丹町では、積丹半島の気候風土が育んだ、樹木の実や香草植物(ボタニカル)を生かし、国内初のボタニカル栽培からジンの蒸溜まで一貫して生産・販売を行う民間会社を設立。その拠点である「積丹ブルー蒸溜所」を核として、民間主導の官民連携による新たな地域づくりを進める取組みを推進する。

関連数値目標・KPI

数値目標	基準値 (H26)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
新規就業者数 (人)	—	11	5	220.0
新規起業件数 (件)	—	4	3	133.3

取組の推進体制

平成28年度から官民連携による事業化に向けた調査研究を進め、平成30年3月には、産学官金関係者、ふるさと納税寄付者、観光サポーター等、道内外の積丹町と関わりのある方々で構成する「積丹応援団」の力により、「株式会社積丹スピリット」を設立。令和元年8月には、産学官金連携事業として、国・金融機関の支援が決定。

課題と今後の対応状況

本事業の到達点の1つは、この販売を通じて、観光振興や森林・農地資源の有効活用等につなげることにあり、今後の課題は、購入顧客を通じた積丹町及び積丹半島の魅力の更なるPRを進めることにある。

今後は、自然資源のみならず、食、酒を活かした新たな体験・滞在型の体験ツアーづくり等を通じて、地域経済の活性化、さらには、域内資金循環、新たな資金誘導も図り、産業育成を図る。

取組事例

積丹GIN開発等事業

○主な取組

積丹町の地方創生を推進するプロジェクト。積丹半島に自生する香草植物のミヤマバクシンやウワミズザクラ、アカエゾマツの他、荒れた農地で栽培しているハーブ等をブレンドし、ボタニカルの風味を最大限に活かした蒸溜酒の生産・販売を目指す。

○主な成果

町営温泉「岬の湯しゃこたん」の隣接地に、国内初のクラフトジン蒸溜所が建設され、令和2年5月23日より蒸溜を開始。世界中のすべての方々の明るい未来への「希望」を願い、同年6月5日から蒸溜酒積丹ジン火の帆「KIBOU」のインターネット販売を開始し、7月6日時点で全国約1,000人から注文が殺到し、初回蒸溜品約2,000本は完売。

積丹ジン火の帆「KIBOU」とともに、ボタニカルを身近に感じてもらうため、クラフトジンに使用するボタニカルのフレーバーを生かしたチョコレートも開発、ジンとコラボとした予約販売では即完売するなど、お酒好きの方を中心に幅広い客層からの人気を獲得。



※写真は積丹ブルー蒸溜所外観、蒸溜機、ボタニカル農場、積丹ジン火の帆「KIBOU」

取組事例 都市拠点機能の整備及び補てん型から利用型の公共交通体系の構築 (夕張市)

夕張市では、人口減少に対応する都市機能の集約を促進するため、今後将来の都市拠点となる清水沢地区に子育て支援機能や交通結節点機能を持った拠点複合施設の建設を進めている。また、JR廃線等による市内交通体系の維持のため、デマンドバス等を導入した。

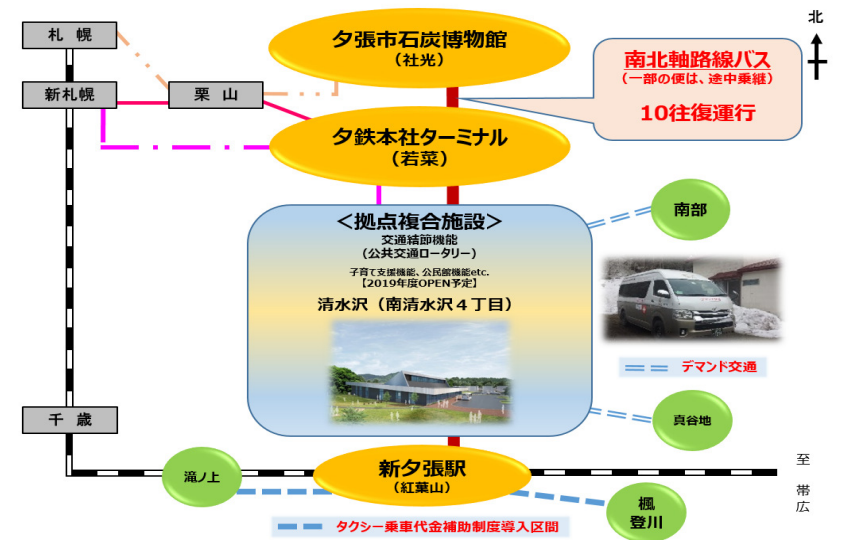
関連数値目標・KPI ※代表的なものを記載

	基準値 (H26)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
交通結節点の構築	0	1	1	100

取組の推進体制

拠点複合施設については、平成30年度に着工し、令和2年3月に供用を開始した。
 新たな公共交通体系の整備については、平成25年3月に策定した「夕張市生活交通ネットワーク計画」に基づき、交通体系の効率化、デマンド交通の導入・運行等を実施している。

新たな公共交通体系



取組事例

拠点複合施設の整備

- 主な取組
 - ・H28年度：市民を交えた検討チームを設置し基本計画を策定
 - ・H29年度：建設用地を取得、基本計画に基づいた基本設計、実施設計を実施。
 - ・H30年度：建設工事の着工
 - ・R2年3月：供用開始



新たな公共交通体系の整備

- 主な取組
 - ・デマンドバスの導入
 - ・タクシー乗車代金補助制度の導入
 - ・JR廃線に伴う路線バスを中心とした交通体系の構築
 - ・仮設交通結節点（バスまちスポット）の設置
 - ・予約型スクールバス（ピコピコシステム）の導入



- 主な成果
 - ・デマンドバス登録者数 260人
 - ・タクシー乗車代金補助制度登録者数 91人
 - ・JR石勝線夕張支線 1日5往復→路線バス南北軸 1日10往復
 - ・ピコピコシステムの導入により、年間約130万円のコスト削減と冬期の増便を実現

取組事例 官民連携による安定した雇用の創出や新しい人の流れの創出

(津別町)

津別町では、官民連携の推進により、空き家活用による新しい人の流れや、障がい者の働く場を創出し、新たな雇用を生み出すことで定住人口の増加に取り組んでいる。

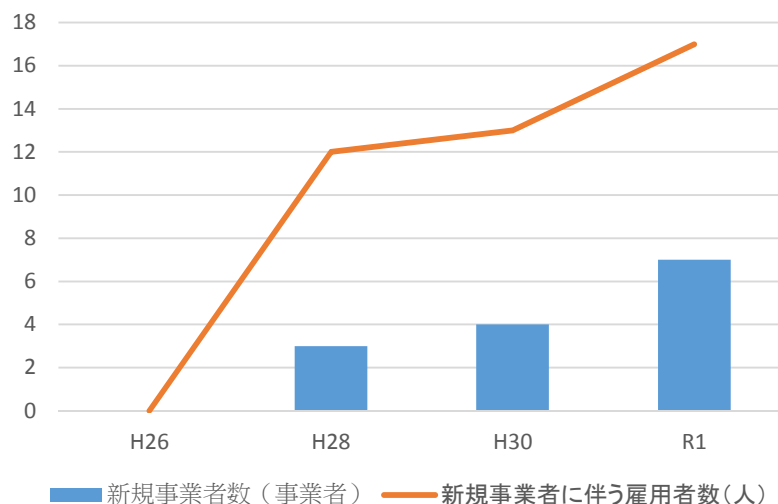
関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (R元)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
新規事業者の増加に伴う雇用者増	0人	17人	5人	340.0%
障がい者等の地元での就労	2人	7人	7人	100.0%

取組の推進体制

役場、社会福祉協議会、農業協同組合、商工会などから構成される「津別町創生総合戦略会議」を立ち上げ、官民の連携により取組を効果的に推進。

新規事業者の増加に伴う雇用者増の状況



取組事例

— 津別町で働き、暮らしたいと思える活力あるまちづくり

官民連携による地場産業振興

○主な取組

地域経済の循環促進と地域外からの外貨獲得を推進し、民間主体の稼ぐまちづくりを実施する民間組織として、「北海道つべつまちづくり株式会社」を設立。

障がい者の働く場と生活の場の確保

○主な取組

千葉県船橋市の障がい福祉事業者と連携し、町内に子会社「(株)びーと」を設立。

町内の障がい福祉事業者へサービス拡大支援等の実施や町内の空き家を活用した町内初の障がい者向けグループホームの開所、就労へ繋げる情報収集の場としてカフェ運営を開始。

○主な成果

障がい者等の地元就労人数
H26: 2人 → R1: 7人



空き家活用による新たな価値の創出

○主な取組

空き家活用により新たな価値を創出する「道東エリアリノベーション・プロジェクト・イン津別」を立ち上げ、ゲストハウスとコワーキングスペースの運営者の育成を行うワークショップを実施。

○主な成果

平成31年2月に「起業支援型コワーキングスペースJIMBA」がオープンし、多くの人的交流を創出している。

